

国鉄闘争をはじめ、すべての争議の 一日も早い勝利解決をめざす決議（安末）

戦後最大の不況を理由として、あらゆる産業でリストラ「合理化」が大々的にすすめられ、最近の異常な円高によりさらに製造業の海外進出や中小企業の経営危機が進行しています。このようななかで、きびしい人べらしと権利侵害が強行され、労働争議が多発しています。連合が人べらし「合理化」に積極的に協力しているもとで、愛労連はすべての労働者を視野にいれ、労働者の生活と権利を守るために全力をあげてたたかってきました。

県内の争議では、運輸一般・扶桑クリーン分会、建設一般・銭高組名古屋支部、福保労・よびつぎ保育園などで勝利解決しました。

全国では、山武ハネウエル、小田急電鉄、雪印乳業、武田薬品などの長期大型争議が次々と勝利解決しています。

東京電力の争議は裁判で四連勝し、中電の闘争も重要な段階を迎えています。国家的不当労働行為といわれる国鉄闘争では中労委が救済命令を出しましたが、国労と全動労は行政訴訟を申し立て、一〇四七名の職場復帰と不当労働行為の一掃をめざしてたたかいをすすめています。

労働委員会民主化闘争では大阪で非連合労働者委員の再選と選出のルール化、沖縄に次いで高知でも県労連推薦の労働者委員を選出しました。愛知での地労委の民主化は引続き重要な課題となっています。

県内では今年度新たに、医労連・愛治病院労組、全国一般・ゴシボ支部、運輸一般・平安生コン分会などの解雇争議が発生しています。

すべての争議の勝利解決にむけて全労連・愛労連の果たす役割はますます重要になっています。

愛労連は人間らしく生き働くために、あらゆる職場に自由と民主主義を確立するとともに、国鉄闘争をはじめとする争議の一日も早い勝利解決にむけて奮闘することを決議します。

一九九四年九月四日

【アピール】（案）

参院愛知再選挙の終盤にむけ

村山内閣の悪政阻止に全力を尽くそう

民社党から当選した新聞正次が学歴詐称事件の失職により行われている参院愛知再選挙は、村山内閣発足後はじめての国政選挙として全国が注目するなかで終盤を迎えています。

序盤をめぐる情勢は、永田町が移転してきたと言われるように、自民・社会さきがけの連立と新生党中心の旧連立が国民不在の権力抗争を、そのまま愛知に持ち込んだ様相となっています。

しかし、有権者の反応は、当初の「もう・うんざり」と言う状況から、もともと新聞問題での再選挙であり、「政治家のウソと倫理」が問われる選挙であることや新・旧いずれの連立も自民党政治の継承であることなど「総保守対革新」の対決として争点が次第に鮮明になりつつあります。

また、連合愛知は、社会・民社が与野党に二分されたことで「きわめて残念かつ深刻な事態」と受け止め矛盾を深めています。

愛労連は、八月二日の第三回評議員会での方針にもとづき、村山内閣の発足後はじめての国政選挙として、悪政・悪法に対する断固たる有権者の審判を下す絶好のチャンスと位置づけました。

同時に、不況の国民本位の打開、年金・医療・福祉の改悪、消費税率の引き上げ、コメの輸入自由化反対など、要求実現をめざす世論の革新的結集と政党選択の基準を示し、旺盛な職場からの政治論議を呼びかけ奮闘してきました。

組合員のみなさん

九月十一日が投票日です。最後まで要求実現と政治革新のために全力を尽くされることを重ねて訴えます。ともに頑張りましょう。

一九九四年九月四日